

## 2024年度 第3回公立大学法人大阪経営審議会議事要旨

日 時： 2024年12月19日（木）15時00分～16時30分

場 所： I-site なんば 2階カンファレンスルーム（大阪市浪速区敷津東 2-1-41）

※Web 会議システムを併用して実施

出席者： （外部委員）生野委員、池田委員、上田委員、上山委員、尾崎委員、土屋委員、鳥井委員、比嘉委員

（内部委員）福島理事長、辰巳砂副理事長、酒井理事、東山理事、櫻木理事、高橋理事、重松理事、中村理事

（オブザーバー）帯野理事、藤本理事、宮部理事、白井監事、前田監事

### 【冒頭報告事項】

11月17日に開催された「第37回全国高等専門学校ロボットコンテスト2024」において、本学高専「ろぼっと倶楽部」が2連覇を達成した旨の報告があり、当日の様子を映像で紹介された。

### 【審議事項】

#### 1. 第2期中期計画（案）について

高橋理事より説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

<ご意見等>

（上山委員）

15 ページの 3-1「受講者アンケートによる公開講座の満足度」について、満足度よりむしろ回数・参加人数、会場の埋まり具合などを記載したほうが努力の成果として具体的になるように感じる。

17 ページの 6-2「オンライン授業対応の環境整備とそれを活用した効果的な授業を含むすべての授業の学生満足度・理解度」については内容が曖昧である。オンライン授業をきちんと実施できることは当然だし、これは通常の授業の満足度のチェックと同じではないか。そもそも何をチェックしたいのか分からない。

18 ページの 9-1「卒業・修了生の就職先への満足度」については違和感がある。卒業修了者が就職先で満足するかどうかまで送り出す大学側は把握できない。かつ3年以内の転職が3割という時代なので、成果をここまで求める必要はない。就職活動における大学の相談窓口の対応に対する満足度であればいいが、就職先での満足度は就職先と本人の問題なので、これは追いかけすぎではないか。

25 ページの 20-1「公開講座、出前授業の参加者満足度」については来た人はたいてい満足する。むしろ参加人数や実施テーマなど、どのような成果ができればいい仕事をしたと言えるかを整理した方がよい。無理に指標にせずとも活動の成果が見えるのであれば定性的な目標でもいいではないか。

（高橋理事）

就職先の満足度は、業者等がそういったものも一つの指標として作っているの、これを上げている。基本的には定性的な数値はもちろん追いかけていくが、今回はできるだけアウトカムを見たいため、満足度等になっている。ご指摘の通り参加者数等のデータはモニタリングしていく。

(福島理事長)

日経新聞だったと思うが、先日、企業の人事責任者からの我が大学の卒業生に対する評価が確か日本の大学の中で8位という報道もなされていた。また大阪公立大学が来年初めて卒業生を出すので、ぜひそのような評価もウォッチングしていきたいと思っている。

(高橋理事)

補足すると就職先からのアンケート等も取ることになっている。そこまで回収率は高くないが、アセスメントのデータとして使っていくことになっている。

(土屋委員)

18ページの大きくは(6)「学生支援」に関連するが、私は大学というのは入口、真ん中、出口、この3つが非常に大事だと思う。真ん中は、計画に書いてあることが実現できれば極めてレベルの高い、質の高いものになってくる。入口に関しては、過去はデータを集計するような傾向が強かったが、この2、3年、極めて戦略的に入試戦略に取組み、実績も出てきている。一方、出口のところは、学生個人の頑張りによるところが大きいように感じるので、大学としてももう少し出口に関して取り組みをしてみたらどうか。例えば、先般発表された司法試験で慶応大学と早稲田大学がナンバー1、ナンバー2に踊り出てきたが、これはカリキュラム等を相当質の高いものにされている。これは法科大学院だけの問題でなく、大学の戦略として取り組んでいかないといけない。そういう面でもう少し出口に関して、中期計画に書く必要はないが、何らかの形の取り組みをしていって、優秀な人材を作り上げて、それを広く輩出していくというところにも力を注いだらどうか。

(福島理事長)

出口はたくさんある。文科系で代表的なのは、司法試験と公認会計士と国家公務員。あとは医学部とか獣医学とかたくさんあり、うまくいっているところもあれば、そうでないものもある。公認会計士は市大府大OB・OG組織が合併して、公立大学公認会計士会というのができ、現在は25人前後の実績だが、今後5年以内に倍増ということを目指そうという様なご提言も頂いている。出口の戦略からも、うちの大学のブランドをぜひ上げていきたいと思う。看護師の場合は、100パーセントに近いということもあるので、一度整理をして、皆様方にご報告と同時に、特に学外に発信もしていかなければならないと思う。

(土屋委員)

出口に関して大学として積極的に取り組んでいくということが大事。いろいろな試験もありますし、企業が採用に際し、企業に入っている大学出身者が動いて、引っ張ってこようとする。そういうことも一つであるし、いろいろな面で広く有能な人材を輩出していくというスタンスを大学で持って取り組まれたら良い。

(尾崎委員)

高専について、日本の高専の先頭を走っているというようなイメージが湧くようにしてほしい。例えば寄附講座を取ってくるなど。それから19-2「新たな編入学制度の構築」とあるので、高専から公立大学に編入学する時の条件をもう少し明確に書いて、せっかく高専で良い学生を育てているので、大学に入りやすくするような方法も考えてほしい。

(東山理事)

尾崎先生、高専に対してエールを送っていただきありがとうございます。なかなか目に見えるよ

うな形でご報告させていただくのは難しいが、非常に優秀な学生がたくさんおられるということ、それから産業界でも非常に期待をされているということがあるので、女性入学者も増やすということも含めて、かなり先駆的な取り組みと理解している。今度はご案内のように中百舌鳥の方に高専も移転をするので、これを機会に工学部と高専とのコラボとか、あるいは先ほどご指摘のあった編入学の手法の改善に取り組んでいきたい。

(池田委員)

今グローバル化が進んで、国内でもたくさん留学生の方とかいろいろな方が来ていただける時代になったと思うが、留学や異文化に触れるボランティアなどを学校として支援するような取り組みをされたらもっとよいのではないかと。私はとある公益財団法人で、審査に受かった学校の子への授業料貸与をやっているが、やはり海外に触れて帰国した方の話を聞いていると凄まじい経験となっているので、そういうことをこの学校でもできたらさらによいのではないかと。

(櫻木理事)

大変貴重なご意見ありがとうございます。おっしゃる通りである。やはり海外に出ていくと言っても、例えば留学をする先の連携校を増やすなど、しっかりと築き上げていくことが大事なので、これは留学してくる方もそうだが、海外連携大学等をしっかりと開発していきたい。

(比嘉委員)

19 ページ(6)「学生支援」について、ボランティア活動や課外活動に対する支援があるが、私はある新聞社の市民の社会福祉賞の選考委員をしており、今年大阪公立大学の学生のグループを表彰した。その内容は、ある肢体不自由の障がい者を 40 年間、公立大学の多くの学生が支援してきたというものである。そのグループの方々と話すと、そういう活動をすることで、障がい者の方に対する支援だけでなく、自分たちのコミュニティができるということで活動に対する満足度が非常に高かった。そういうグループを大学として把握して何らかの支援をされたらと思った。

(高橋理事)

大学としての取り組みというより、学生の有志の団体が障がい者の自立生活支援の取り組みで継続的に行っているものなので、その部分の支援は制度的には今のところできていない。この場でご紹介いただき感謝する。

(上山委員)

今回意欲的なテーマについて、チャレンジ指標という概念を入れて目標値を出されているのはよいが、一方で、毎年追いかけてそこから見えてくる変化、つまり PDCA のような指標のリストは継続的に見ていく必要がある。国家試験の合格率など、毎年出てくる数字の上下を見て課題を発掘するプロセス自体が大事だと思う。「データで見る公立大学法人大阪」にかなりの指標が入っているが、やはり状態を定点観測できるような、一覧性のあるデータを、経営審議会には、年に一回でいいので出していただくのが大事。例えば授業評価アンケートの結果で、高専については書いてあるが大学本体については書いていない。そういうものはベーシックなことなので今更中期の目標に掲げる話ではないと思うが、定点評価となる。学生の授業満足度をはかる授業アンケートをちゃんと実施するというのはとても大事なことなので、それが実施されているか、その結果どうなっているか、そういうものは多分理事会として必要で、経営審議会でも見ておきたい。

(高橋理事)

当然そのような指標は、毎年経営審議会や、法人評価委員会にもリストとして提示していく。また法人では内部質保証システムということでアセスメントリストを作っており、その中に今ご指摘のあったものは全て上がっており、自然にモニタリングできるという形を今作っていて、実際に第2期ではそうした動きをしていきたい。

(上田委員)

10 ページ「人事・組織」について、女性教員在籍比率 25%、女性教授比率 20%の評価指標ということだが、現状、例えば教員公募の際の女性限定公募をされているのか、あるいは一般の公募であっても、例えば東京大学などでは、男女共同参画を推進しており女性の積極的な応募を歓迎しますという一文が必ず入っているが、その辺りの現状をお聞きしたい。

(櫻木理事)

今、本学はダイバーシティ研究環境イニシアティブの補助をいただき指標を掲げているところでもあり、女性限定公募もかなりたくさん実施している。それから女性の上位職への昇任も、別にインセンティブの枠を作って積極的に取り組んでいるところである。この達成に向かってかなり目標に近い数値に来ているところで、今後も引き続き行っていきたい。

(上田委員)

もっと数値高くてもいいかなと。3割だと変わってくると思うので、もし達成がかなりできているのであれば、今後も引き続き超えるぐらいに行っていたらと思う。

(福島理事長)

今職員も同じような形で取り組んでいる。またご報告させていただければと思う。

(生野委員)

医学部の学生の支援について、臨床研修医に対する支援は、制度が充実していると思うが、いわゆる研究をする基礎医学の先生方の道のハードルが高い。まず臨床研修医として卒業後から経験を積まないといけないため、すぐに大学院を希望する者は少なくなってしまう。研究をしたいが最後は臨床に行きたいということになるとなかなか難しい。このあたりの基礎医学、あるいはこういう先生方に対する支援が、公立大学ではあったらいいと思う。

(中村理事)

ご質問ありがとうございます。医学部を卒業すると制度上の縛りが多く、2年間の初期臨床研修、その後専門医研修を4年間しないといけない。少なくとも前者を終えない状態で基礎医学に進めなようなシステムになっているのは事実だが、一方、臨床医学とは別に、基礎医学は研究・教育が中心なので、人員が少なくなると高度な研究がしにくい環境になってしまう。今具体的にはお答えできないが、基礎医学を重視した人員の充当なども考えていきたい。

(前田監事)

女性比率について、大学も頑張っているのは日々見ているが、数値を目標値よりかなり上回るぐらいまで上げてほしく、助成金終了後は自己資金で続けなければいけないので、なくなる前に組織をきちんと作り継続できるようにしていただけると嬉しい。

また高専に関して、学生の国際化はとても大事だが、まず教員が海外留学等をして英語での授業に違和感がなくなると、生徒の質も上がると思う。高専機構で資金補助等も行っているので上手に使っていただけると嬉しい。ちなみに大阪公立大学で高専から3年次編入する学生の人数はどれく

らいか。

(東校長)

編入学の人数だったら毎年 10-15 名。

(前田監事)

ぜひ多くの高専生が入学し、高大連携がより進むようになると嬉しい。

(東校長)

大阪公立大学以外のところに行きたがる場合もある。

(前田監事)

なるほど。でも編入して大学に進学する方が多くいるのはとてもいいこと。

(東校長)

先生方の海外での活動については、国立高専機構が作ったいくつかの海外の高専があり、その支援に行っているというのが実情。それは負担が大きいということで、公大高専ではやろうという話にはなっていないという現状であるが、今後も頑張ります。

(前田監事)

また外部資金獲得が低調であるが、産学連携の組織を今回作られたのでぜひ産業界の人材をたくさん入れて、ぜひその方たちの成果報酬、頑張った方は上がっていきけるような評価の形を作り、たくさん資金を獲得できる人は上のポストで仕事ができるというふうにしていなければ嬉しい。

(櫻木理事)

最後の部分については URA という形で、外部の人材も今後採用していく予定だが、そこにはキャリアパス、評価制度が不可欠で、今まさに構築するところである。それから女性教員の部分は、サステナブルにできるよう、文科省の補助金は研究環境の整備が主だが、人事の方は大学がやっぴかないといけな。例えば今すぐ採用する枠がなくても、将来空くような枠を最大 5 年間先取りして採用できるような形で、今、昨年度から進めているので、継続的にできるような仕組みを今後も続けていきたい。

(宮部理事)

中期計画においてやはり作り方と使い方が重要だと思う。使い方で、6 年間定性的な目標ということのを大事にして、KPI はごく一面を表現しているだけで、その一つの数字だけ追いかけて定性的な目標全体がオクケーとなるのではなく、毎年の計画を作る中で、定性的な 6 年間の目標がいかに深化するか。KPI は当然達成されるだろうが、それはごく一面だという見方をする方がよいと思う。

また高専の進学をどう見るかをまた議論できればと思うが、そもそもその高専ということの意義をどう考えるか。技術を早く身につけ、世の中に早く出て、さらに実社会で鍛えられていくという、そういう機会を作るのが高専なのか、あるいは最近では、いわゆる普通の入試ではなく高専の試験から大学、大学院に進むということもある。それもよいかもわからないが、高専というものの存在意義をどういうところに置くのか、共通認識を持った方が、進学率・進学先について深く議論できるかなと思う。

(福島理事長)

ありがとうございます。高専は 2027 年に寝屋川から中百舌鳥に移し日本で初めて大学の工学部と同じキャンパスとなるので期待いただきたい。編入学で 10 人から 15 人入学しているが、私は校長

に優秀な人が来ているかという問いかけもしているので、いろいろと皆さんに議論いただければと思う。

(帯野理事)

チャレンジ指標は貴重。ぜひ達成していただきたい。ただ、2029年度受入留学生1,600人、現在の3倍に近いなどかなりチャレンジングなものなので、またいつかの機会に、どういう風に達成するのか、毎年の目標はどのくらいか、その達成に向けて制度を学内で作らないといけないので、そういうところも確認したうえで意見交換できたらと思う。

(藤本理事)

私も素晴らしいチャレンジ指標だと思う。寄附について、大阪大学に素晴らしい女性の副学長がおり、彼女が寄附をお願いすると本当に心に響いて企業はしっかり寄附する、私は同性だが、思わず寄附を、となったことがある。10億は容易に達成できる値だと思うので、戦略を練ってほしい。

(福島理事長)

大変嬉しく思います。本学にも女性の副学長がいるのでぜひおうかがいしたい。ありがとうございます。では皆さんからご意見いただき、少し見直すところもあるかと思うが、基本的には今回皆さんにお諮りしたこの中期計画でご承認とさせていただきたい。

## 【報告事項】

### 1. 2023 事業年度の業務実績に関する評価結果について

森岡企画部長より説明がなされた。

<ご意見等>

特になし。

### 2. 危機発生時の連絡及び危機対策本部設置フローについて

露口本部事務機構長より説明がなされた。

<ご意見等>

(土屋委員)

45 ページのフローについて、第一発見者からの連絡先の選択肢が多いので、選択肢を絞って、その電話番号は危機管理者だということを明示して、そこに連絡するというふうにしたほうがよい。どこでもよいというのも一つの良い方法に見えるが、実際にはその場だったら迷うのではないか。訓練結果の中で、4分で完了したとあったが、フロー上でどこからどう連絡をするのか、あらかじめ分かっていたのか。実際にトラブルが起きたときにどこに連絡するか、例えば夜だから守衛室なのか、それともどこかに行ったらいいだろうかと迷うと思う。普通こういう場合は、一つの括りの中で危機管理担当者を指定して、その方は一定の時間、電話を受けるような形をしたほうが、連絡しやすいと考える。

(露口本部事務機構長)

ありがとうございます。ご指摘の通りである。今回は全体のフローを示しているが、別に学生用・教職員用のフローを作っている。例えば学生用のフローであれば、第一発見者の学生がまず守衛室

か先生に報告することを明示し、各キャンパスにおける守衛室の電話番号も明示して配布をしているので、土屋委員のおっしゃる対応をさせていただいていると思っている。

### 3. OMU シニアアドバイザーについて

柴山企画総括部長より説明がなされた。

<ご意見等>。

(上山委員)

中身自体ではないが、この「OMU」というのが、どういうときに入るのか。ブランドマネジメントや対外コミュニケーションの統一性というところからの質問だが、OMU はそもそも大学法人の英語名を略したものなのか、それとも法人の中にある大学を呼称しているのか。今回英語の職名からすると法人の方なのかと思うがどうか。OMU がここに入るなら、私たちも第3回公立大学法人 OMU 経営審議会になるのか。

(福島理事長)

戦略的に使わせていただいている。個人的には大阪公立大学という名称は長く、大阪公大でもしっくりこない。でもまずは大阪公立大学を国内外に売り込んで認知してもらい、国際化にも繋げたい。名称が長いので、ある意味では OMU を戦略的に適切に使っているということで、当面はダブルブランドで、OMU という名前もぜひ使いたいと思う。特に万博等では大阪公立大学より OMU のほうが分かってもらえるのかなど。そのような感じで今ブランド戦略に取り組んでいるということである。

(上山委員)

戦略的な発信を意識する時に使われているということを理解した。それなら経営審議会は今のままでいいと思う。参考までに、慶應大学は最初、慶應藤沢キャンパスを KFC と言ったが、ケンタッキーフライドチキンみたいだということで、湘南藤沢キャンパスで SFC にした。それ以来慶應 SFC と呼ばれることになった。OMU が同じように俗称、一般通称で普及するといいと思う。

(比嘉委員)

後ほどの基金の資料で、東北大学基金と OMU 基金が並んでいるが、一般の人が OMU と聞いて大阪公立大学と分かるのか。もう少し認知度を高める必要がある。

(福島理事長)

ご指摘の通りで認知度を高めるためにこれを使っている。認知度がないから表記しないのではいつまでも認知度は上がらないので、とにかく大阪公立大学と OMU をうまく使いながら、できたら両方のブランド力を上げていきたい。ぜひ OMU は大阪公立大学で、基金を集めているらしいということでぜひご支援いただければと思う。

### 4. 本部機能集約について

露口本部事務機構長より説明がなされた。

<ご意見等>

特になし。